

進捗状況の概要 【1ページ以内】

日印の産官学連携のもと、技術開発に留まらず起業・事業化、国際社会への実装、評価、革新への展開を担う高度人材育成の場を構築するという本構想の目的の下、5つのプログラムを基軸にして多岐にわたる活動を順調に展開している。**鉄道技術者育成プログラム**は、IIT-K鉄道研究所とその設置段階当初から連携し、H26、27とも本学教員による集中講義や講演を実施した。またH26よりインド鉄道省職員を修士課程に受入れている。**社会インフラ教育連携プログラム**は、学生受入・派遣、IIT-D教員による授業等を実施した。**イノベーション教育連携プログラム**は定期的に両国でワークショップ、サマースクールを実施し、相互に学生派遣・受入した他、現地連携校自ら教育を展開する準備を始めた。**技術経営教育連携プログラム**では、学生派遣・受入の他、ケース教材を作成し両国の教育コンテンツの充実を図った。**情報理工教育連携プログラム**では、学生交流に加え、連携校学生を対象とした博士課程特別入試の実施を確定した。

事業内外の連携の強化

連携校との学生交流覚書の締結をほぼ完了し、今後授業料不徴収による学生中長期交換留学が可能となった。鉄道省からの留学生受入れに関しては、教員が現地に赴き交流会に参加する等の活動を通じて日印の産官学連携強化に努めた。連携校の教員とは密に連絡をとり、共同授業やインターンシップ受入れ等について幅広く協議している。その成果としてIJEPインターンシッププログラム(H28/5月受入)が実現した。今後は共同講義、ワークショップ等を企画予定である。情報理工学系研究科では、インド連携校を対象に博士課程特別選抜入試の実施を決定し(H29/9月入学)、これにより来日することなくインドで書類・ネット面接のみによる入試が可能になった。卒業生の同窓会であるインド赤門会とも引き続き連携を深め、今後もインドで実施する体験活動への支援等を受ける予定である。また日本語教育について、インドの学生の特質に合わせた教育展開に関する協議を連携校と進めている。さらに新領域創成科学研究科に寄付講座「先進ヒューマンモビリティ安全設計学」がH28/4月新たに設置される予定で、これにより鉄道技術者育成プログラムの活動の一層の拡充が期待できる。

多様な学生受入・派遣

本事業の5つのプログラムの教育交流をベースに、インターンシップによる実践を含めた短期交流から専門能力を持った人材を養成するための正規学位課程まで、多様なプログラムを実施した。正規生は2年間で12名入学しており、そのうち鉄道省からの留学生には、鉄道総合研究所やJR東日本等企業でインターンを実施した。H27に情報理工学系学生12名がIIT-Hにて共同でワークショップを行うとともに、インドの大手企業や現地日系企業を訪問した。H27にはIIM-Bの学生がインド側の費用負担で30名来日し、イノベーション教育の授業を受講した。この他、社会インフラ関連で6週間IIT-Kに滞在した学生は、デリーメトロ、インド国鉄を視察した。H27に来日して技術経営プログラムの夏季集中講座に参加した3名は派遣元大学で単位認定を受けた。

プログラム全体としての整備・成果の普及

本事業の英文のウェブサイト、パンフレットを作成し、インドの教員・学生に向けて本事業の周知を図った。インドへ派遣された学生には報告書を提出させ、企画改善のための材料として活用している。また派遣・受入学生ともに達成度調査を実施した。工学系研究科・情報理工学系研究科のウェブによる留学生受入システム(T-cens)を改良し、インターンシップ応募者の便宜を図ると同時に、選考手続きが効率化された。インドでの留学フェアへ参加するとともに、インド事務所および同窓会組織であるインド赤門会との連携を強化しながら本事業の推進、普及に努めた。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成26年度				平成27年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
6人	11人	2人	4人	40人	32人	42人	58人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。